様式3

学 校 番 号

56

令和 5 年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立筑紫中央高等学校（全日制課程）

自己評価

学 校 運 営 計 画 （4月）

学校運営方針	校訓を拠に、志をもって広く学び、たくましく生き抜く力と豊かな人間性を培い、公共のために尽くす生徒を育成する。また、百年を超える伝統に誇りを持ち、生徒が自らを高め、人のために生き、愛される存在となる生徒を育成する。		評　価（総　合）
昨年度の成果と課題	年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標	
本年度は創立106年目を迎え、新校舎で新たな歴史を創造する初年度となる。令和の福岡県公立学校のモデル校となるような教育活動を推進する。そのためには大野城市唯一の高等学校としての使命を深く自覚し、地域と一体となった教育活動を目指す。そして「楽ではないけど楽しい学校」、「生徒が主役の学校」を実現すべく、地域との更なる連携を図り、地域に貢献する開かれた教育活動や情報発信の充実をとおして、地域に信頼され愛される学校づくりを目指し、「新生筑中」の土台作りを確実に行う必要がある。また、本校の生徒は高い潜在能力を持っており、一人一人の「第1希望進路実現」と「世のため人のために尽くすことができる人財の育成」を学校全体の目標として教職員全員が協力して推進する。	主体的協働的に学ぶ生徒の育成と人間力の向上	(ア) ICTを活用したオンライン学習やアクティブ・ラーニング型授業をハイブリッドで実践し、個々の生徒に応じた魅力ある授業を展開する。また、授業力向上のための研修を充実する。 (イ) 個々の生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価する多面的評価を行い、生徒の自己肯定感を高める。 (ウ) 自分と異なる個性や生き方、価値観等を認め合い、「いじめ」等の人権侵害を撲滅する。	A
	課題解決力の育成と将来を見据えた進路の完全実現	(ア) 5年後、10年後、50年後を見据えた生徒一人一人の多様な進路希望を完全実現するために必要な取組やスキルの一層の向上を図る。 (イ) 充実した課題研究や小論文指導をとおして社会的・職業的自立に必要となる能力を育成するとともに、夢や希望をもって学び、強い意志をもって進路実現を図ろうとする態度を養う。 (ウ) 国内・海外語学研修等を通じて国際理解教育などグローバルな視野を持った生徒の育成を図る。	
	規律ある生活習慣の定着と感動体験の重視による豊かな心の醸成	(ア) 「18歳成年」を踏まえ、社会生活の基盤となる基本的生活習慣を確立し、規則やマナーを遵守する態度を養うとともに公共の精神を涵養する。 (イ) 生徒が主体となって取り組む生徒会活動や学校行事、部活動のさらなる充実を図り、自己指導能力を高めるとともに自主性、主体性、チャレンジ精神を育む。 (ウ) 大野城市との連携を強化し、総合的な探究の時間やボランティア活動で地域と連携した取組を行う。	

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価（最終）			成果と課題、他分掌への提言
学習指導	教師の指導力向上と授業の「質」の改善による学力の向上	職員研修や生徒アンケートを有効利用して学習指導法の改善を目指す。	B	B	A	職員研修等を生かしながら、授業は改善されている。学期当初の2者面談で目標を定め、生徒が学力向上につなげられるよう、担任を中心に声掛けを継続させる必要がある。また、効果的なアンケートの方法や調査後の分析方法などの検討が必要である。
		新学習指導要領、大学入学共通テストを見据えた学習指導計画を作成する。	B			
		感染状況に注意しながらAL型授業を展開し、主体的・対話的で深い学びを行う。	A			
	基本的習慣の確立と人間力・社会人基礎力の向上	面談等を通じ、生徒自身に生活状況を分析させ、課題の解決に導く。	B	A		家庭学習の習慣化等学習活動についてはきちんとできている。今後は、面談などの場面で生徒自身が生活の状況や学習状況を分析し、課題の解決に導くことができるよう、指導の徹底を図りたい。
		授業規律を徹底させるとともに、家庭学習の習慣化を図る工夫を行う。	A			
		学習活動を通じて「人間力」「社会人基礎力」が向上するよう指導を工夫する。	A			
	ホームルーム活動、総合的な探究の時間の有効活用	生徒指導課・進路指導課と連携し、キャリア教育・道徳教育の充実を図る。	A	A		ホームルーム活動や総合的な探究の時間については、学年ごとに計画的に取り組むことができている。今後は反省や課題を明らかにし、学年ごとの取り組みではなく、学校全体として「軸」となるべきことを確立させていきたい。
		各学年の目標に沿ってホームルーム活動・総合的な探究の時間を効果的に活用する。	A			
		様々な活動から、PDCAサイクルを参考に課題解決能力の育成を行う。	B			
	学習評価の在り方の検討と校務支援システムの有効活用	主体的な学習を促すため、多面的評価及び目標準拠評価を確立させる。	B	B		教育課程の編成は、教育課程検討委員会を中心に継続した検討がなされている。新課程による大学入試の実施科目や出題範囲などの情報を元に、今後も継続した議論が必要である。校務支援システムについても、継続して利用法の検討が必要である。
		新学習指導要領・大学入試改革を踏まえ、教育課程の検討を継続して行う。	A			
		導入された校務支援システムに習熟し、有効活用できるように努める。	B			
生徒指導	校訓を拠に、百年を超える伝統に誇りを持ち、地域に根ざした、時代に先駆けた新生筑紫中央を創る	新校舎移転を契機に、筑紫中央の新しい学校文化を創造する。	A	A	A	校則については、生徒・学校・地域の実情、保護者の願いや時代に合ったものであるか、今後も積極的に見直しを行う。成年年齢引き下げに伴う規定については、検討・見直しを行う。
		校則の見直しと簡素化により、「18歳成年」に向けた自覚を促す。	A			
		教員生徒ともに笑顔での挨拶を励行し、「笑顔溢れる学校」を創造する。	B			
	自他を敬愛し、尊重する人権教育・道徳教育・情報教育の充実	定期の学校生活アンケートを活用し、「いじめの予防・早期発見・早期対応」に努める。	A	A		毎月のアンケート結果を、個人面談や学年会議、いじめ問題対策委員会に活用することができた。また、アンケート実施のマンネリ化をなくすことで、いじめの早期発見・認知・対応ができた。ネットトラブル防止や命の大切さを育む講演会の内容は好評であった。
		学校行事や部活動を通して、自他を敬愛し「自己・他者肯定感」を向上させる。	A			
		SNSに関する啓蒙活動を通して、コミュニケーションづくりの涵養とネットトラブル未然防止□努める。	A			
	規範意識の向上と主体性・チャレンジ精神の醸成	交通安全指導を通し、規則やマナーを遵守する態度と事故の未然防止、公共の精神を涵養する。	A	A		登下校中における交通事故や苦情は昨年度と同じ状況である。重大な交通事故「0」を目指した方策を含めマナーや規範意識の向上に向けた取り組みを検討する。生徒会活動や部活動の活性化については、より自主性・主体性を育む指導を引き続き行う。
		社会的なマナーと遵法精神を育みながら、生徒の「規範意識の向上」を図る。	A			
		生徒が主体となって取り組む生徒会活動や学校行事、部活動を推進し、「主体性・チャレンジ精神を醸成」する。	A			
	感動体験の重視による、豊かな心の醸成	体育祭や宰都祭等の学校行事を通し、達成感や充実感を味わわせ、「豊かな心の醸成」を図る。	A	A		昨年度より校外施設を使用した体育祭については、実行委員会・3年生のブロックリーダーを中心に、プログラムの充実がなされた。新校舎で初の宰都祭では、多くの来場者もあり盛り上がった行事となった。今後も行事における課題を克服しリーダーの育成に努め、生徒達が達成感を味わえるよう活動内容の充実を図る。
		部活動加入率85%をめざし、生徒が継続して取り組める魅力ある部活動を実践する。	B			
		生徒会組織の整理と活性化を図り、社会へはばたくリーダーの育成を行う。	A			
進路指導	望ましい勤労観・職業観の育成と進路意識の向上	多様な進路希望を完全実現するための取組を充実させる。	A	A	A	進路意識の高揚について、各学年講演会等を実施し進路目標を明確にする取組を行うことができた。探究学習の中で志望理由を明確にすることや、進路学習を通して進路実現への意識付けを深めた。
		同窓会に協力を依頼して本校OBを招き、職業観育成教育「ようこそ大先輩」を実施する。	A			
		「志望理由書」の作成を充実させ、目的を明確にした進路実現を図る。	B			
	将来の夢を抱き、目的意識の明確化と進路目標の設定	「学部学科研究」の実施やオープンキャンパスへの参加により、進学意識を高めさせる。	B	B		各学年や各コースにおける具体的な実践を蓄積し、学年間でも引き継ぎ等で共有していきたい。課題の検証や新たな取り組みによる工夫・改善を用いて、筑紫中央高校の進路指導を明確に発信したい。
		3年間を見通した進路指導計画を明確にし、長期的な視野に立った進路指導を行う。	B			
		国公立大学70名、西南学院大学延べ120名（難関私大10名）の合格者数を目指す。	B			
	進路指導体制の充実と大学入試改革への対応	課外授業の在り方を見直し効果的な指導や生徒の学習意欲向上を図る。	A	A		課外授業は時間を減少して実施した。（昨年比）生徒自身が学習に係る手段を選択し、主体的な学習方法を探索することや家庭学習時間の拡充を図りたい。また、教科学力以外の力（表現力・体験）を養成できる時間も充実させていく。
		「課題研究・小論文指導」を通じて、社会的・職業的自立に必要となる能力を育成する。	A			
		学校推薦型選抜・総合型選抜に適応できる、面接・小論文指導の充実を図る。	A			
	教職員のキャリアガイダンス能力の向上	内部の情報共有や外部から最新の情報を入手し、生徒の進路実現に繋げる。	A	A		各大学からの情報収集や、進路指導に係る情報発信は充実している。生徒との双方向コミュニケーションをさらに充実させて、有益なレスポンスが得られる工夫を加えていく。
		多様化する進路希望へ柔軟に対応できる、幅広い指導力を個と組織で持つ。	B			
		学習の自走化を支援できる手立てを進路目標に応じて提供する。	A			

学校関係者評価

評　価（総　合）	自己評価は A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である
A	

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	・学習指導の成果が向上した理由の分析と明確化が必要。
A	・地域と一体となった活動も評価できる。 ・他の学校との差別化を全面に出していい。「自由」だけど締めるところは締める、自分で考える、というところを。 ・部活動参加率が82%（高い）なので、部活動での交通安全指導も有効だと思う。
A	・大学合格者数増加の要因は？ →（進路主幹：入試の累計に応じた指導や9月からの入試に向けた雰囲気の醸成など）

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（最終）			成果と課題、他分掌への提言	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
企画広報	儀式関係行事の円滑な企画と運営	各分掌との連絡・調整を密にし、円滑な業務運営を行う。	B	B	B	各分掌や関係部署との事前調整が不十分な部分があったことは反省である。各行事について、全ての先生方に個別に相談することは時間的に難しいので、各分掌と連携をとりながら、行事全般が円滑に行える組織づくりを行っていきたい。	A	・企画広報の評価にはBが多いのはなぜか？ →（企画広報部長：さまざまな試みを実施し、担当が厳しく評価している） →（校長：体験入学参加者2200名。入場時には列が駅まで及んだり、各教室での説明動画で音が流れなかったトラブルがあった。このように、集客はうまくいったが、内容や運営で課題があった。「たくさん人が来て大変だった、うまくさばけなかった。」というのが実態だった）
		危機管理マニュアルや防災避難訓練の内容を充実させる。	B					
		行事予定を早期に計画し、会議録の作成と資料保管等を確実に行う。	B					
	学校内外向け文書の作成と生徒の就学支援	学校要覧、入学の手引等各種文書の迅速かつ正確な作成に努める。	B	B		新校舎への引っ越しなどの業務は円滑に行うことができた。一方、離退任式など一部の行事で確認が不十分な箇所があった。最終確認を複数名で行うなどの対応を取り、今後の反省としたい。		
		各種奨学金の案内や手続きを円滑に実施し、生徒の就学支援に努める。	A					
		新転任オリエンテーションや職員室配置等、年度末・初めの業務遂行に寄与する。	B					
	学校内外に向けた広報活動の充実	ポスター・パンフレットの内容を充実させ、中学校や塾に配布する。	A	B		パンフレットは外部委託を行い、業務の軽減を行った。中学生の体験入学は新校舎での初めての開催であったが、課題点が多くあった。来年度への引継を確実に行う。また中学校PTAや生徒来校などは負担が大きく、回数の制限を行うなどを検討すべきである。ポスターは、年間を通して使える小さいサイズに変更した方が利便性が上がる。		
		中学生体験入学の実施方法や内容を再検討し、志願者の増加に寄与する。	B					
		中学生や中学校PTAの学校訪問受け入れ、HPやSNSの充実に努める。	B					
	PTA活動の支援	PTA及び同窓会との連携を推進する。	B	B		PTAの業務分担や内容の精査などを行うため、細かくPTAの方と打ち合わせを行っているが、円滑に進んでいない部分もある。目指す方向は一緒なので粘り強く取り組みたい。また、今後はPTAが行っているあいさつ運動を、マナーアップ指導と連携していくといった活動につなげていけばと考えている。。		
		PTA総会や役員会等の円滑な運営を行い、PTA活動の活性化を図る。	B					
		各委員会の活動記録を取り、来年度の活動に還元する。	B					
情報	ICT活用環境の整備（ハード面）	Chromebookの維持管理方法を確立するとともに、利用しやすい環境を整える。	B	B	A	Chromebookについては、新校舎への引っ越しに伴って初期の導入が遅れてしまったが、一部の授業や学校行事、部活動等での利用をすることができた。今後は、トラブル対応などの情報を蓄積していく必要がある。また、生徒の利用実態に応じた指導についても考えていく必要がある。	A	・ICT活用による授業改善に努めて欲しい。
		校内の状況に合わせ、スムーズな機器購入・運用管理に努める。	B					
		ICT機器の破損・紛失を事前に防ぐとともに、そうした事案が生じた場合も迅速に把握・対応する。	A					
	ICT活用環境の整備（ソフト面）	学校ホームページの維持管理、更新を適切に行う。	A	A		学校ホームページについては随時更新を行うことができた。また、学校行事の写真データも蓄積できた。管理・運用ができる人材については今後も育成していく必要があると考える。		
		学校行事の写真等、デジタルデータの維持管理を行う。	A					
		ICT機器の管理・運用および応用ができる人材の育成に努める。	B					
	教育の情報化推進	統合支援システムの運用管理ができる人材の育成に努める。	A	A		統合型校務支援システムの運用はできているが、教育課程の変更に伴うイレギュラーな対応については今後も情報収集が必要である。また、研修を通してChromebookの活用例の情報共有を行うことができた。今後は、デジタル採点システムについても運用指針を定めていく必要があると考える。		
		進路課と連携して、調査書のスムーズな入出力に努める。	A					
		Chromebookの利用に関する研修を行うとともに、使用例等の情報の共有を図る。	A					
保健	学校保健活動の充実を図る	定期健康診断、健康増進事業の充実により、生徒の健康を保持増進する。	A	A	A	今年度の定期健康診断は、コロナ前と同様の時期に実施することができた。また、新校舎での実施であったが、検診場所や時間配分など、保健委員の働きもあり、円滑に実施することができた。献血については、2学期のレビューテスト④の最終日に実施し、たくさんの方の協力が得られた。	A	・特になし
		保健委員をリーダーとして育成することで、学校保健活動の啓発を推進する。	A					
		献血事業への協力により社会貢献意識の向上を図る。	A					
	教育相談の充実を図り、心の健康の保持促進を図る	教育相談委員会や学年教科連絡会を通して、情報の共有化を図る。	A	A		困り感を持った生徒については、保健課、担任、教科担当、学年、養護教諭、特別支援教育コーディネーター間で情報を共有しながら、サポートすることができている。今後もスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の協力を積極的に得ながら、効果的に支援を促進させる。		
		担任、学年分掌、特別支援教育コーディネーター、養護教諭との連携を図り、欠席日数が増加傾向にある生徒や支援を要する生徒に対して、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、訪問相談員等の協力を積極的に得ながら、早期対応を行う。	A					
	新校舎の美化維持を意識し、清掃活動に努める	新校舎の美化を維持するため、美化強化週間を通して清掃活動の見直しを図り、さらに徹底させることにより、環境衛生活動の意識向上を図る。	B	B		新校舎の清掃について検討し、5月から終礼後の当番制掃除に変更した。二度の美化強化週間や、美化委員会、職員アンケート等を踏まえ、きれいな校舎を維持していくために、よりよい掃除の在り方を保健課で検討を重ね、来年度から実施できるように提案していきたい。美化委員会の活動を活性化させることで、日々の清掃活動の充実と徹底をさらに図っていきたい。		
		ゴミの減量化と分別指導の徹底により、循環型社会の形成者としての資質を育成する。	B					
		行事前美化点検や校外行事での清掃活動を主体的に取り組ませ、美化委員のリーダー育成を図る。	A					
		職員間におけるペーパーレス化を推進し、生徒への印刷配布物についても紙資源の有効活用を促す。	A					
図書	図書館活動の推進を図る	図書館移転にともない、機能的な図書館を目指す。また、蔵書の充実と広報活動に努める。	A	A	A	引越のため整備に時間がかかったが、図書館は教室棟から近くなったこともあって生徒の利用が増えた。今後は掲示物だけでなく公式インスタグラムなどを利用し、新着案内などを行っていきたい。	A	・図書館が売りだと思っている。勉強する環境として図書館の多機能化もあるのでは。
		図書委員会における活動を通して、図書委員のリーダー育成を図る。	A					
		朝読書の充実を図る。	A					
	刊行物の充実を図る	刊行物（校誌・図書館報・PTA新聞など）の内容の見直しをして充実を図り、より良いものにしていく。	B	B		校誌・図書館報は企画立案や原稿集めに苦労しているが、二月末発行を目指し準備を進めている。PTA新聞については臨時号・夏号・冬号と予定通り進んでいるが、今後はページ数やレイアウトなどを再考した方がよい。		
		原稿依頼の時期や回収方法の改善と全体への企画募集等を検討する。	B					
	芸術鑑賞を通して、豊かな感受性を育成し、感性を磨く	芸術文化の素晴らしさを認識させ、伝統と文化を尊重する態度を育成する。	A	A		本年度は、11月28日（火）に福岡市民会館にてゴスペル・コンサートであった。次年度、開催の時期と対象学年については慎重に考えたい。また、本年度の反省点として公演団体との交渉が直接できなかったので、その点も演目を選ぶときに注意したい。		
		芸術鑑賞を通して、社会で必要なマナーなどの向上を図る。	B					
		演目の内容を事前に知らせ、内容の理解が深まるようにする。	A					
研修	職員研修の充実	職員研修会を充実させる。	A	A	A	職員研修は「いじめの撲滅に向けて」、「観点別評価の考え方」、「心肺蘇生法」、「小論文指導」等に関して行った。相互授業参観についても良好な取り組み状況だった。	A	・特になし
		ICT活用・AL型授業などのテーマを決めて研究授業・相互授業参観を実施する。	B					
		ICTを活用した授業改善に努める。	A					
	人権意識の高揚	人権同和教育についての職員学習会など事前準備を徹底する。	A	A		人権同和教育授業は、各学年における準備をきちんと行ったため、一定の成果を収めることができた。人権読み物は3学期以降に取り組んでいく。		
		人権意識強化週間を設け、読み物企画を実施する。	A					
		ホームルーム等を活用して道徳的教育を行う。	A					

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（最終）			成果と課題、他分掌への提言	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
第1学年	学習習慣の確立と学力の向上	予習と復習を徹底し、基礎・基本の内容理解を目指した授業を展開する。	A	A	A	日々の授業には一生懸命に集中して取り組む生徒が多い。一部家庭学習が未だに定着していない生徒もいるため、予習・復習の徹底をさせるとともに、模試の結果を有効に活用し、重点的に取り組むべき内容を精選させていきたい。	A	・那珂川北中に生徒が40名来校したが、今年は（昨年あったような）生徒からの提案等がなく、目的意識があまり伝わってこなかった。なぜ来校したのかがもっと明確になればより効果がでるのではないか。
		模試・レビューテスト結果を活用し、生徒の学習における課題解決を図る。	A					
		ICT機器やAL型授業など効果的に活用しながら、「知識を活用する力」を身に付けさせ、さらに「思考力・判断力・表現力」を育成する。	A					
	進路意識の向上とキャリア形成	入試制度についての情報を1学期より適宜発信し、進路意識を向上させる。	A	A		1学期にはWGを活用し、進路講演会や進路研究を行うことができた。夏季休業中についてはオープンキャンパスも積極的に勧めている。 また、企業訪問などを生かしながら、キャリア教育育成を図った。企業訪問の経験を、次年度の課題研究などに生かしていく。		
		将来に具体的な目標を掲げさせるため、課題研究や企業訪問などのキャリア教育を通して、生徒の職業観・勤労観の育成・向上を図る。	B					
		WINGやHR活動を計画的に行い、「生きる力」を養成する。	A					
	自他尊重の精神の育成と規範意識の向上	『時間・挨拶・掃除・返事』の指導を徹底して行い、集団生活における自他尊重の精神と規範意識を育成する。	B	A		年度当初は日々の挨拶や時間を守ることが徹底できていなかった。日々の学校生活や学校行事の中で、教員が一丸となって率先垂範していくことで改善傾向にある。また、いじめや差別などを許さない毅然とした態度で指導にあたるとともに未然防止に努める。		
		日常の学校生活はもとより校外での活動等も成長の機会と捉え、感動体験や成功体験を味わわせ、自己肯定感や帰属意識を高める。	A					
		スマートフォンやSNS、生徒間の人間関係トラブルを未然に防止し、いじめは決して許さない毅然とした態度で指導にあたることで、生徒の安全・安心を確保する。	A					
		教員間や家庭との情報共有をしっかりと行い、生徒の変化に気づけるようにする。	A					
第2学年	授業を中心・大切にした学習の確立と基礎学力の向上	基礎・基本の更なる定着を目指すとともに、授業を大切にする姿勢を築かせる。	A	A	A	次年度はいよいよ受験を迎えるにあたり、家庭学習をはじめとした自学の習慣及び大切さを今後一層指導していきたい。そして、大学入試をはじめとした進路実現に向けて、さまざまな取組が遂行できるよう準備に取り掛かる。	A	・東北修学旅行はめずらしいが、どういった経緯できまったのか？どんな反応だったのか？（学年主任の意向。震災後の地域の実態を学ぶことができた。）素晴らしいことだと思う。
		常に学習習慣を見直し、アップデートさせながら自学の習慣を確立させる。	B					
		大学入学共通テストについて研究し、生徒が共通テストに対応できる力を養成する。	A					
	自分で考えて主体的に行動する生徒の育成	挨拶の励行、身だしなみ・時間厳守・清掃の指導を徹底する。	B	A		さまざまな行事を通して、リーダーとして、また学校の中核として活動しようとする自覚が芽生えてきている生徒が増えてきた。次年度も継続していきながら、本校への帰属感を醸成し、下級生へと引き継げるようにしていきたい。		
		体育祭や宰都祭などの学校行事に主体的に参加し、中核となれる生徒の育成に努める。	A					
		キャリア教育等を通して、生徒の職業観や勤労観を育成・向上に努める。	A					
	人を思いやり、自他を敬愛し、尊重する態度の育成	行事等を通して感動体験や成功体験を味わわせ、自己肯定感や帰属意識を高める。	A	A		小さなトラブルを見逃さず、今後もいじめや差別などを許さない毅然とした態度で生徒と接するように努めていきたい。また、小さな成功体験を大切にし、生徒の自信につながるような支援を継続していきたい。		
		SNS等のトラブル未然防止、いじめを許さない雰囲気作りに努める。	A					
		個人面談などを通して、生徒との信頼関係の構築に努める。	A					
第3学年	各個人の進路実現に向けた学習環境の整備	授業・課外を通じて自ら学ぶ姿勢を醸成する。	A	A	A	自習室、休日の教室利用等も少しずつ軌道に乗り環境が整ってきている。面談等も各担任が各個人に合わせて密に行っているので、生徒が進路実現に向けてしっかりと前に進んでいる。	A	・大学合格者数増加の要因は？ →（3学年主任：生徒が頑張った！総合型選抜が増えたため、早い段階から気持ちを切り替えさせた。自習室を整備することで、環境作りと生徒の意欲喚起につとめた）
		定期的に二者面談を行う。	A					
		図書室の利用、新たな自習室の設置を通して、生徒の校内での自習環境を整える。	B					
	最上級生としてのリーダーシップとフォロアーシップの発揮	第74回体育祭を成功させる。	A	A		宰都祭では、短い時間であるが参加をすることができたので、1・2年生にアドバイス等はすることができたのではないかと思う。来年度以降もこの形を続けていければ良いのではないか。		
		学校生活全てにおいて、後輩たちの手本となるような発言・行動を意識させる。	A					
		新校舎での生活・校則の変更等、変化が求められる中で柔軟に対応し、活力ある行動ができる姿勢を養う。	B					
	18歳成人である自覚と責任を意識させ、「大人」としての行動力の育成	自分の行動に責任を持ち、他者と協働しながら学校生活を進めていくことで、一人ひとりが自立（自律）していくことを促す。	A	A		基本的な生活習慣の大切さ、人との信頼関係の構築、マナーを守るということ、時間を守ること等の側面からアプローチを続けてきた。「全員が自信を持って社会に出て行くことができます」とまではいかないかもしれないが、多くの生徒は自ら考え、行動することを、今までの学校生活から経験し理解することはできたのではないだろうか。		
		様々な活動に主体的に参加させることで、自己指導能力を育成する。	A					
		多様性を重んじる社会の一員として、他者・自己のさまざま面を尊重し、受け入れる姿勢を養う。	A					
事務部	新校舎及び旧校舎に係る諸問題の解決	新校舎に移転したものの不足する物品や設備について学校内で共有しながら計画的に整備を行う。	A	A	A	可能な限り、旧校舎の物品を再利用し、必要な物を新校舎に再配分し、環境整備に努めた。また、解体まで最終処分を計画的に行えた。	A	・特になし
		解体及びグラウンド整備の関係者と緊密に連絡をとりながら諸問題に迅速に対応し、問題解決に努める。	A					
	適切な事務運営	光熱水費のほか各種予算の経費節減に努める。	A	A		新年度の新たな係分担により事務処理が困難になっていたが、校務分掌を見直して複数人でチェック、検討をすることでミスの軽減に努めている。さらに、互いをチェックすることで他の業務への責任研鑽につながっている。		
		効率的な事務を心がけ、迅速かつ正確な会計処理を目指す。	A					
		事務分掌のほか、広く自己研鑽に取り組む。	B					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

一つ目は国際交流について。大野城市の交流会においてアメリカからの留学生との交流、イギリス・ロンドンで海外派遣には16名が参加、また韓国とのオンライン交流も実施できた。今後もグローバルな視点を持った生徒の育成を図る。
二つ目は、地域と一体化した学校づくり。大野城市のイベントに参加したり、最近では大利小児童への生徒ボランティアによる英語指導も行った。今後、街づくりの一環として学校周辺の整備（例えば西鉄高架と学校との間に大屋根の建設）が計画されているのでより一層地域と連携した学校づくりに努める。

評価項目以外のものに関する意見

・ハード面だけでなく、ソフト面も整えていこうという体制が感じられる。生徒にやらせて学校を変えていこうという（卒業生としても）上昇気流に乗っている感じがする。
・文化祭3000人はすごい。コミュニティスクール的な、大野城市との取り組みはもっとしていい。
・生徒会と話す機会が欲しい。